



ベルリン大聖堂
1905年に現在の姿に立て替えられた。銅葺きの天蓋部分は、第二次世界大戦で被害を受け1993年に修復が終わった。

天真爛漫 Copper Tone – 銅

東京芸術大学教授
篠原 行雄

東京芸術大学の鍛金を専攻すると、銅板による絞り技法（冷間加工）と鉄による鍛造技法（熱間加工）の習得を主に各種溶接、鑄付け、機械切削加工等の制作実習が行われます。約一年半の制作実習の後に各自の考えをもとにして研究制作に向かい学部4年生は、卒業制作に向けて鍛金表現を模索します。表現の素材として銅を選ぶ者、鉄を選ぶ者それぞれの個性が表れるように思えます。

私は、学生当時、自然と鉄の男性的な質実剛健な姿に魅力を感じて制作していました。その後転機を迎えることになるのですが、それまでに制作した展示会の為の大型の鉄作品は、ほとんどが展示が終わるといづれ錆びて朽ちてしまう運命をたどっていたのです。

三十歳頃から制作した物を朽ち果てることなく残したいと感じはじめました。

銅の絞りは、学生当時から恩師である山下恒雄先生の制作のお手伝いの中で薫陶を受けていましたので、鍛金技法から表現に関する事まで実制作を通して長い間研鑽を積むことができました。自分の作品制作に銅は、あまり使用しなかつたけれども身近にあつたにもかかわらずその良さを改めて考えたことも無かつたし気が付かなかつたのかも知れません。

銅は構造体になるほどの強靱さは持ち合わせてはいませんが耐久性、永遠性においては他のどのような素材に比べても群をぬいています。

恩師である藝大大学長の宮田亮平先生は、「鉄は犬、銅は猫」とお話されていました。私は、犬も猫も飼ったことがありますので、言わんとするところは

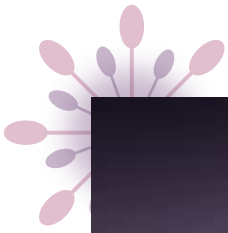


ベルリン大聖堂 銅葺きの天蓋の外回廊に設置されている銅像。(2005年撮影)
ニューヨークの「自由の女神」と同様に打ち出し鍛金された銅板を内部の鉄の骨組みで支えている。緑青に覆われた銅像の黒変している部分は、ガルバニック腐食（鉄と銅の接触腐食）と思われる。
*同じくベルリンのブランデンブルク門につながる6月17日通り、ティーアガルテンの中央に立つ戦勝記念塔ジーゲスゾイレ（1864～1872）の頂きに立つ黄金の女神ヴィクトリア像（映画「ベルリン天使の詩」に出てきます）は、鑄造で金箔が張られている。

すぐに理解出来ました。そこで先生、私も考えてみましたよ。「金銀銅三姉妹の長女、黄金に輝く金は、重くそのねっとりとした肌は妖艶に、老いる事もなくまさに永遠の価値あるものです。次女、銀は透き通る白い肌の貴婦人で世の男性を魅了します。その白さゆえ肌がデリケート、外気によつて黒いしみができ易く肌のお手入れに気を使う。それに比べ末娘の銅は、ピンク色の肌で天真爛漫 copper tone に日焼けして健康に遊ぶ親近感のある全く愛すべき存在なのです。」
先生、如何でしょうか。

人間は、古代から銅に心を託してきたのです。銅は、永遠の（美）を写し取られるべく存在していたのです。

「私、こう考えるのよ。人間は、自分の感覚や心を人間に伝えている。人間に一番興味があるわよね。



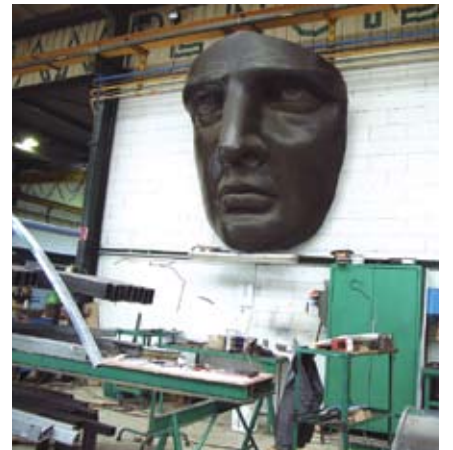
東京芸術大学 鍛金研究室の最初の制作課題。
円盤状の平らな銅板から回転体の花器を絞る60回の制作行程を示している。(学部2年生による制作)



筆者 鍛金制作による作品。銅に硫化着色



本誌、銅の歴史物語-10で紹介されたニューヨークの「自由の女神」の修復を請け負った工房。銅の鍛金で制作された「自由の女神」の顔部分のレプリカが壁に掛けられていた。(2005年撮影)
*この工房のあるランス(Reims)は、パリから東北東約130kmに位置し歴代フランス国王の戴冠式が行われたランスノートルダム大聖堂(ゴシック建築13c~15c)があり「微笑みの天使」像、聖堂内部にシャガールのスタンドグラスがある。



筆者 鍛金制作による着色仕上げ前の銅の生肌

1955年	埼玉県生まれ
1979年	東京藝術大学美術学部工芸科卒業
1984年	東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程満期退学
1999年	新世紀人形展 辻村寿三郎賞
2000年	Royal Academy of Arts Summer Exhibition 2000, 2001 (London)
2003年	「工芸の世紀」展(藝大美術館)
2005年	大学教育の国際化推進プログラムで渡欧
2007年	東京藝術大学創立120周年企画 日本美術「今」展(日本橋三越)
2009年	当代国際金属芸術展 金賞(精華大学美術学院) 東京藝術大学美術学部教授



篠原 行雄
しのはら いくお

しかも人の顔って一番読み取れる要素があつて、顔は、精神を映し出している鏡のようにも感じられる。」
「TV、映画、漫画にしても圧倒的に人間、それも顔が一番多くえがかれているよね。神仏にしても人の形をしている。」
「人間は生まれてからずっと多くの時間人間を見て生活しているので、いろいろな物事を人間にたとえて理解したり伝達したりしているのよ。」
「言葉たつて似ているね。そして、もっと最適にシンプルに自分にフィットした言葉を探すじゃない。だから表現つてこれで終わりがいいんだね。」